

# 学びとふれあいの町宣言

記念式典が行われました！



6月22日(土)、ワープ上里で学びとふれあいの町宣言記念式典が行われました。上里北中学校吹奏楽部によるオープニング演奏、宣言が行われた後、下山教育長をコーディネーターとして、5人のパネリストによる記念パネルディスカッションが行われました。「『学びとふれあい』をとおしたまちづくり」をテーマに、行政が取り組むべき方向性や学習成果を活かしてのまちづくりへの参加方法、学びをとおしての生きがいづくり等について、考え方や意見を発表していただきました。



関根孝道町長

産業基盤や住環境の整備が進む中、生涯学習の機会を充実させたいと考えている。

「こむぎっち村」をテーマに、行政が取り組むべき方向性や学習成果を活かしてのまちづくりへの参加方法、学びをとおしての生きがいづくり等について、考え方や意見を発表していただきました。

また、12月には小中学校のエアコン設置や上里中学校の改修工事も完成し、将来を担う子どもたちの教育環境の整備を進めます。医療の面では年間約60億円が医療介護費にかかっていることを皆さんはご存知でしょうか。皆さんの健康のためにも現在制作中の「こむぎっち体操」で体操していただき、元気なまちづくりを推進していきたいですね。

共に学び

共に考えましょーよう！

夢ある、元気なまちづくり

野島正也さん



文教大学学長。中央教育審議会生涯学習分科会専門員。『現代公民館全書』等著書多数。

## 良くなること

### 喜びを感じること

宣言文には『生涯をとおして学ぶ』とありますが、まず「学び」とは何でしょうか。知らなかったことが分かるようになる、できなかったことができるようになる、これが「学び」だと考えます。その学びに加え、人との会話や、認められる、褒められるといった「交わる楽しさ」を感じることが重要です。少しでも良くなっていくことに喜びを感じることが生涯学習であると考えています。

人と交わることを楽しいと感じる、励まし合う、この関係を広げることが鍵です。一人ひとりが喜びを感じることができると暮らした社会が、学びとふれあいのある町の本当の姿ではないでしょうか。

## まず

### 一歩 すぐ近くの できそうなことから

まず、「一歩前へ」進むことが大事だと思えます。今すぐ何か実現するということより、何でもいいからすぐ近くのできそうなことに取り組む。横との連携・協同を意識しながらできれば、なおいいですね。

次に「行政で働く職員の意識を変えること」。八潮市ではまず、生涯学習とは何か、私たちができることは何か、を考えました。そして、住民の方の一生に関わることに行政ができることは何かを考えました。その中の一つに、職員が住民に対して行う生涯学習出前講座があります。現在ではさまざまな講座があり、8つの部門を揃え、年間1万7千人が受講するまでになりました。

松澤利行さん



前八潮市教育総務部長。現在、埼玉県生涯学習審議会委員、NPO法人全国生涯学習まちづくり協会理事。

池田浩美さん



上里町出身。元なでしこジャパンチームキャプテン。現在、京都文教学中・高女子サッカー部アドバイザー。

## 自分

### を理解することが 強みになる

サッカーは16歳から始めたのですが、サッカー歴が長い選手との技術の差がコンプレックスでした。日本代表に選出された時、喜びよりも自分のミスで点を入れられたらどうしよう、という不安や恐怖心の方が大きかったですね。それらを乗り越えられたきっかけは、代表初合宿の時、消極的な姿勢だった私に監督から言われた「上手い選手としてではなく、相手に何回抜かれても追いかけて、身を挺してでもゴールを守ろうとする姿勢を持つ選手として、お前を呼んだんだ。」という言葉でした。それから自分の良いところを認識し、理解できるようになり、誇りを持ってグラウンドに立てるようになりました。自分自身の良いところを再確認していくことが、毎日の張り合いになっていくのではないかと思います。

## 住

### 民が 町をきれいにする心

中学2年生の時、上里町海外派遣事業第一期生として参加しました。「外国人に伝えたいこと」という小論文の課題に対し、派遣先であるシンガポールについて調べる中で、歴史の真実を知ることができ、どうしても他国と友好関係を築けるかということを考えることができました。

また、シンガポールは街並みがきれいな印象は持っていたのですが、実際に現地に行ってみて、上里も同じくらいきれいなのでは、と感じました。調べてみると、シンガポールの街並みが保たれているのは、罰金制度によるところが大きいことが分かりました。上里の人々は罰則の有無に関係なく、自分たちで町をきれいにできる心を持っていて、気持ちの面でもきれいだと感じました。

中川仁美さん



上里町出身。上里町中学生海外派遣事業第1期生。現在、上里東小学校教諭として勤務。

← 次のページへ続きます。

キーワードは「良くなること、前進have it」



コーディネーターの  
下山教育長

ずつの努力が叶った結果でした。目標を持ち、前進することとでその先にある喜びを感じられます。そのためには、目の前にある自分のできることをやっていくことが大切だと思います。

**子どもが自ら変わるよう応援する**

中川 海外派遣は母の勧めで知り、テレビでのシンガポール特集も母が教えてくれました。保護者が子どもを見守り、興味関心を持つきっかけづくりをしていくことが大事ではないでしょうか。子どもが自発的に、自ら進んで良くなるように変わる応援ができればよいと思います。

**目標を持つこと  
その先の喜び**

池田 経験からいうと自身自身を理解することに加えて、「目標を持つこと」が大事だと思います。目標を達成するまでにはさまざまな道のりがあると思います。私の場合、それらを繰り返し少しずつ進んだ結果、三度目のオリンピックでベスト4になりました。少し

ました。どんなに良い議論でも結果が出なければ意味がありません。まずは何かやってみることに、です。松下幸之助さんの「熱意は磁石」という言葉があります。熱意のある行動に周りが協力してくれる、ほうっておけなくなるということです。町民も行政も同じだと思います。皆さんの熱意が花開くことを願っています。

**「幸せ」  
「仕事を合わせる」**

野島 研究で扱った「孤独なボウリング」という本があります。最近は一入焼き肉、一人カラオケなど、何人かでするものを一人でする人が増えているという内容です。同じ場所においてもバラバラであることが現実であります。これが良くなるのか。「しあわせ」を昔の辞書で調べると「仕合わせ」しか出てきません。仕事（活動）を合わせることで「しあわせ」ではないのでしょうか。現在では、皆でわいわいやるのが少なくない気がします。グループで一

緒に活動し、時には競い合うこと、子どもにそのような感性を育てなければ、将来幸せを作る人材にはならないかもしれません。

**共に考え共に行動  
協同のまちづくりを**

町長 生涯学習には男性の参加が少ないという話も聞きますが、この会場には非常に多くの男性がおり、頼もしく、うれしく思います。今後公民館活動にも積極的に参加していただければと思います。宣言の内容は、町民の皆さんの



熱い思いをいただきながら共に考え、共に行動することで実現できること。協同のまちづくりに、積極的に参加していただきたいと思います。

教育長 パネリストの皆さん、ありがとうございます。学びとふれあいのまちづくりは、一言でいうと町民の皆さんが主役であるということです。それを行政がどうサポートできるか。従来の行政主導ではなく、住民の意向を汲み取りサポートしていく、このように変わっていく必要があると感じた、というところで締めくくりをさせていただきます。本日はありがとうございます。



宣言文には  
こんな意味が  
あるよ！

# 宣言文の解説

「学び」とは、幼児期の親や家族から教えられることから、現役世代の仕事に必要な学び、高齢者の生活に潤いを与える趣味や教養など、あらゆる学びの場面(機会)を含んでいます。「ふれあい」とは、地域・家族・職場などでの人と人との良好なコミュニケーションを表しています。近所づきあい、家族の絆などの重要性を強調しようという意図もあります。

## 柱書の1つ目


学びは幼少期から高齢期まで、人生を豊かにする大事な要素です。大人になってからは教養や趣味などでも充実させられます。それらを生涯にわたって楽しむことが、結果的に生きがいにつながり、充実した生活の実現につながることを表しています。

## 柱書の2つ目

スポーツや健康づくりを通して、心身ともに健康で、すこやかな毎日を元気良く過ごすことの大切さを表しています。また、「活力にみちた」とは、活気があり町民が生き生きと暮らしている様を表しています。

## 柱書の3つ目

町民どうしが親密に触れあうことで、相互の絆が深まり、結果として一人ひとりが人権を尊重することやいじめをなくすことなど、町民が互いに尊重しあい、住みよい社会の実現を目指すことを表しています。



**宣 言**

学びとふれあいの町

わたしたち一人一人が学びをとおして自己を高め、心豊かでうるおいのある上里町の実現を目指し、ここに「学びとふれあいの町」を宣言します。

- 生涯にわたって学ぶ楽しさを味わい、生きがいをもち充実した生活をおくります。
- 豊かな心と健康な体をつくり、活力にみちた毎日をすごします。
- ふれあいを大切にして絆を深め、明るいまちづくりをすすめます。

平成25年4月1日  
上 里 町

「学びの機会を活用しましょー！」

「いっしょにがんばって、なげなげに」

これからの学習需要にこたえるための生涯学習の推進は、地域社会の活性化、高齢者の社会参加、青少年の健全育成など、社会全体にとっても有意義となります。学校だけでなく、社会のさまざまな教育機能を活用した学習を重視し、「いつどこで学んだか」ではなく、「何をどれだけ学び、身につけているか」ということを評価する社会（「学習社会」から「学習歴社会」）へ移行することが求められます。

目まぐるしく変化する社会に対応するには、学校で得た知識だけでなく、生活のあらゆる分野で絶えず生み出される知識・技術を生涯にわたって学んでいく必要があります。一方、高齢社会への対応という側面も見落とせません。医療、保健の面での大きな課題を解決し、豊かな長寿社会の実現のためにも学習が必要になります。また、自由時間の増大など、心の豊かさや生きがいのための学習需要が増えています。

なぜ生涯学習が必要？

生きがいのある充実した生活を送るために、自らの意志で自分が学びたいことを、自分にあわせた手段や方法を自ら選んで、自由に楽しく、生涯にわたって学んでいくことをいいます。

生涯学習とは  
考えてみよう

